

入試分析 社会

【出題形式】

- 問 1 : 世界地理
- 問 2 : 日本地理
- 問 3 : 歴史 (古代～近世)
- 問 4 : 歴史 (近現代)
- 問 5 : 公民 (政治分野)
- 問 6 : 公民 (経済・国際分野)
- 問 7 : 「地歴公」融合問題

昨年度より難化。記述問題なし。

出題の形式は大問数7 (地理×2、歴史×2、公民×2、「地理・歴史・公民」の融合問題×1) で変化なし。全体の設問数は昨年度の35問から32問と若干の減少。**問題の難易度は100点満点となって以来一番易化した昨年度と比べて難化。**とはいえ、例年並みかやや易化と言えるであろう。また、**大きな変化としては記述問題が無くなったこと**である。その代わりに選択肢の数が6択・8択の問題が以前よりも増加した。**全体的に図、表、グラフ等の資料を見て答える問題が多いので、普段から意識し慣れが必要がある。**

地理：資料の読み取り 【出題例 大問2(ア)】

資料1 中部地方における県ごとの就業者数と産業別就業者数の割合 (2017年) (就業者数の単位：万人)

	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県
就業者数	116.5	55.4	61.0	42.2	44.2	111.2	105.9	194.5	406.9
第1次産業	5.3%	2.7%	2.9%	3.5%	6.9%	8.5%	3.4%	3.3%	2.1%
第2次産業	29.7%	33.9%	28.2%	31.4%	28.3%	28.7%	32.6%	33.4%	32.7%
第3次産業	65.1%	63.4%	68.9%	65.1%	64.8%	62.7%	64.1%	63.3%	65.3%

(「データでみる県勢 2020年版」をもとに作成)

※ 小数第2位を四捨五入しているため、県ごとの産業別就業者数の割合の合計が100%にならないことがある。

(ア) 資料1に関して、次の産業の名称X～Zのうち第1次産業に分類されるものと、資料1から読み取れることについて説明した文a、bの組み合わせとして最も適するものを、あとの1～6の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

産業の名称	X サービス業	Y 建設業	Z 林業
読み取れること	a 中部地方において、第2次産業の就業者数が最も多いのは富山県である。		
	b 中部地方における第3次産業の就業者数は、600万人を上回っている。		

1. Xとa 2. Xとb 3. Yとa 4. Yとb 5. Zとa 6. Zとb

歴史：世界史と日本史のリンク 【出題例 大問4(オ)】

(オ) Kさんは、メモでまとめた国ぐにに関するできごとを年代の古いものから順に並べ、次の表を作成した。表中の[A]～[D]の期間における日本のできごとについて説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

表

メモでまとめた国ぐにに関するできごと	
イギリスが、香港を植民地とし、賠償金を獲得した。	↑ A * B * C * D ↓
フランスの思想家ルソーの考え方の影響を受けて、日本で自由民権運動が活発になった。	
レーニンの指導のもとで、ロシアで革命がおこった。	
アメリカ合衆国のサンフランシスコで、講和会議がひらかれた。	
ドイツのベルリンを分断していた壁が、取りはらわれた。	

1. [A]の期間に、はじめての衆議院議員総選挙がおこなわれた。
2. [B]の期間に、治安維持法が制定され、社会運動に対する取りしまりが強まった。
3. [C]の期間に、農地改革がおこなわれ、自作農が増加した。
4. [D]の期間に、国際連合のPKOにはじめて自衛隊の部隊が派遣された。

「入試に向けて」

- ① Weekly Testと教科書で基本的な知識や用語の復習を行っていく。**春から何度も覚え直してやっと定着していく!**
- ② 歴史は年号ゴロ合わせも併用する。世界史のできごとは近い時期の日本史の事件とリンクさせる。**歴史の流れだけでは解けないレベルも想定!**
- ③ 資料やグラフの読み取りに慣れる。縮尺の計算、割合や%から数量を計算できるようにする。**計算力も問われている!**
- ④ 問題のキーワードから、どの知識が問われているかを推測する。**入試問題・模試・テスト&ゼミなどでアウトプットの訓練!**